

忠岡町立忠岡中学校

話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。

考えられる課題

●話し合いの目的や方向性・過程を論理的に捉え、整理して対応する力に課題がある。

正答率	本校	63.2%
	大阪府	72.3%
	全国	76.0%

これからの指導の方向性

読み取り中心の授業から「聞く」「話す」力をつける取り組みを強化する。その際、一方向からの「話す・聞く」ではなく、相互の意見をもとに結論を出したり、意見の共通点と相違点を整理し、論理的な視点を重視してまとめる活動を行う。

- 1 題名の候補を他にも複数挙げさせ、これまでの二つの案と比べてそれぞれのよさを述べさせる。
- 2 どちらの題名がよいかすぐに手を挙げさせ、その結果を参考にして最終的に司会が決定する。
- 3 それぞれの題名に賛成する人たちがグループを作り、そこで出た意見を次回までに整理する。
- 4 推薦理由の共通点を確認し、相違点について他の人から質問や意見を求めて題名を一つに絞る。

二 このあと、司会の岩田さんは、どのように話し合いを進めていけばよいですか。次の1から4までのうち、最も適切なものを選びなさい。

題名の候補について

候補	メモリー ～いつも隣に友がいた～	はばたき ～きずなを胸に～
整理		
共通点	学級の団結力	
相違点	過去の思い出	

【話し合いの一部】



岩田さん（司会）

前回、題名の候補を「メモリー～いつも隣に友がいた～」と「はばたき～きずなを胸に～」に絞りました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の推薦者から再度意見を聞きまします。そして、話し合ってください。それでは、南さんからお願います。



南さん

「メモリー～いつも隣に友がいた～」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出すことでしょうか。また、副題から、学級でいつも団結できたことも表せます。



高橋さん

「はばたき～きずなを胸に～」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、何事も団結して取り組んだ学級のこと「きずな」という言葉に込められているからです。

6 岩田さんの学級では、卒業文集の題名を決めています。次は、話し合いの内容を整理した【黒板】と【話し合いの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

忠岡中学校 国語 B

ノートを基に標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く。

考えられる課題

●条件に合わせて、40～60字程度のまとまりのある文章を書くことに課題がある。

正答率	本校	26.3%
	大阪府	38.9%
	全国	48.2%

これからの指導の方向性

文学作品の鑑賞文を書いたり、友人の作品の工夫している点や改良点についてまとめたりすることで、分析的な視点から文章を書く活動に取り組む。

1

図書委員の早川さんは、皆にもつと本を読んでもらうために、社会で取り組まれている「読書週間」の標語を参考にして標語を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した【早川さんのノート】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

三 早川さんは、次の二つの〈標語〉A、Bを作りました。これらの〈標語〉について、あなたはどのように思いますか。A、Bから一つ選び（どちらの〈標語〉を選んでもかまいません）、選んだ〈標語〉から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉についてのあなたの考えを、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈標語〉

A 心のアンテナ読書で伸ばそう

B その本が未来を示す案内図

条件1 〈メッセージ〉及び〈表現の工夫とその効果〉は、【早川さんのノート】を参考にして具体的に書くこと。

条件2 〈メッセージ〉は、「というメッセージが伝わる。」に続くように書くこと。

条件3 〈メッセージ〉及び〈表現の工夫とその効果〉は、それぞれ四十文字以上、六十文字以内で書くこと。（文末の「というメッセージが伝わる。」は字数に含みません。）

考えられる課題

●1次関数の変化の割合の意味を正確に理解していない。

正答率	本校	33.3%
	大阪府	42.5%
	全国	47.3%

11 次の(1), (2)の各問いに答えなさい。

(1) 下のアからエまでの表は, y が x の一次関数である関係を表しています。この中から, 変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-3	-1	1	3	5	7	9	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-4	-3	-2	-1	0	1	2	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

これからの指導の方向性

・概念理解の要素が高い「関数」の単元における課題は、本校において単純計算の単元と比較すると正答率に顕著な差がある。また、「表」「式」「グラフ」の3要素の関連性を完全に理解できずに複合問題になると弱さを露呈している。

取り組みやすい例題を多く取り入れ、変化の割合を理解させる。さらに視覚的な教材提示を多用して、生徒の関数における概念理解を促進する。

6 次の問題について、グラフを使って考えます。

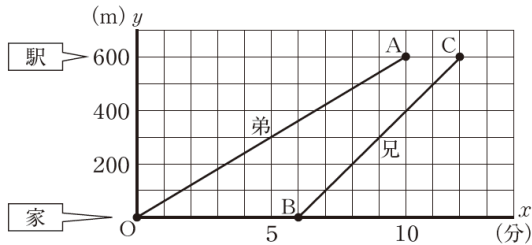
問題

家から600 m離れた駅に向かって、弟が家を出発し分速60 mで歩いています。兄が弟の忘れ物に気づいて、同じ道を追いかけてきました。弟が出発してから6分後に分速100 mで追いかけると、兄は弟に追いつくことができますでしょうか。

また、追いつくことができない場合は、どうすれば兄は弟に追いつくことができましたでしょうか。

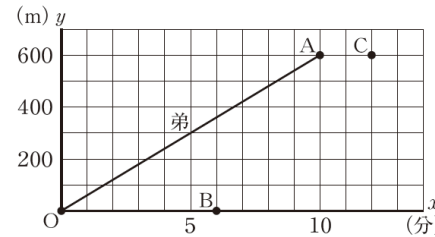
下の図は、弟が出発してからの時間を x 分、家から駅に向かって進んだ道のりを y m として、弟と兄の進むようすを、それぞれ線分OA、線分BCで表したグラフです。

弟と兄の進むようす



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(3) 兄の速さを変えれば、出発する時間を変えなくても、弟が駅に着いたときに、ちょうど兄が弟に追いつくことができます。このようすをグラフに表すには、弟と兄の進むようすの4点O、A、B、Cのうち、どの2点を結べばよいですか。その2点を書きなさい。また、その2点を結んだグラフから兄の速さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に兄の速さを求める必要はありません。



考えられる課題

●グラフを用いて説明することができない。

正答率	本校	24.5%
	大阪府	27.1%
	全国	29.9%

これからの指導の方向性

・「表」「式」「グラフ」を個々に理解している生徒は多くいるが、これらを“道具”として用いることができない。また、説明力を要する問題における無解答率の高さは顕著である。

・授業の中で、「表」「式」「グラフ」を結びつけ、活用する場面と実際に自分が得た知識を考え方として説明する場面を設定する。单元ごとに小テストを実施し、自分の得た知識を活用して、考え方を説明する問題をチェックすることで、定着を確認する。

忠岡中学校 生徒アンケート

11. 家で1日どれくらいテレビ・DVD・ビデオを見ているか。
12. 家で1日どれくらいテレビゲームなどを行っているか。

考えられる課題

●家庭での生活に、「学習習慣」が含まれていないことが課題と考える。

○1日に4時間以上、テレビなどを見る生徒

本校 25.2%

全国 15.7%

○1日に4時間以上、テレビゲームなどをする生徒

本校 21.9%

全国 11.0%

これからの指導の方向性

- 学校通信、学級通信、PTA各委員会等を活用しての啓発活動
- 生徒会による「生活改善キャンペーン」の通年での展開
- 学校図書室の開館日を増やす。(月4回から月6回へ)

忠岡町重点目標にむけての分析及び今後の方向性

忠岡町重点目標

①授業内容がわかる子どもをふやす

②授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす

③家で計画的に学習する子どもたちを育てる

④読書に親しむ子どもたちを育てる

⑤自分には良いところがあると思う子どもたちを育てる

①勉強は好きと答えた生徒の割合は昨年度に比べて低下している。授業は分かると答えた生徒の割合も昨年度よりも低くなっている。ひとりひとりにあった授業の展開(習熟度別授業)を工夫するとともに、生徒の意欲を高めるためICTの活用による資料提示などを積極的に行う。

②友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と答えた生徒の割合は国・府に比べて高く、普段の授業で自分の考えを発表する機会さらに増やしながら、今後はまとまりのある意見を発表する機会も多く作り、タブレットPC等を活用して発表がしやすい工夫を継続する。

③家で計画を立てて勉強していると答えた生徒の割合は低くないが、与えられた課題以外では、取組が乏しいようである。予習・復習する生徒の比率も低いので、その重要性を理解するよう努め、保護者の協力も得ながら、宿題への取組も進めていく。

④1日あたりどれぐらい読書をしているかの質問に、「10分以下」と答えた生徒が6割以上もいる。学校図書室、学級図書の整備を促進し、また、読書キャンペーンを行い生徒の読書への関心を高めるとともに、小学校とも連携して、読書週間の定着を図りたい。

⑤自分には良いところがあると答えた生徒が6割近くいる。授業や行事、人間関係など色々なことで今まで以上に達成感や自信を持たせたい。また、結果だけでなく努力した過程の大切さも理解できるように本校の相互評価活動を継続したい。